

2015年1月05日

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州サンパウロ市

「サンタ・クルス病院外科センター医療機材整備計画」

に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

1. 去る12月19日(金)午後2時より当館において、当館としては初めてとなる官民連携による草の根・人間の安全保障無償資金協力をブラジル三井物産株式会社とともに「サンタ・クルス日伯慈善協会サンタクルス病院」(以下、サンタ・クルス病院)に対し行うこととなり、その贈与契約署名式をレナット・石川理事長、ブラジル三井物産藤井晋介社長及び当館福嶋教輝総領事との間で行いました。

出席者の挨拶:

福嶋教輝総領事:「1999年より実施されている「草の根・人間の安全保障無償資金協力」による協力は、当館にとって112番目の協力になる。サンタ・クルス日伯慈善協会は1926年に設立され、ブラジル社会で素晴らしい活動をされている。今回の協力は当館としては初めてとなる官民連携による草の根・人間の安全保障無償資金協力である。三井物産との連携により、日本移民の努力の成果で建てられたサンタ・クルス病院へ支援することができた。今後も民間企業と共に草の根・人間の安全保障無償資金協力を実現していきたい。」と祝辞を述べました。

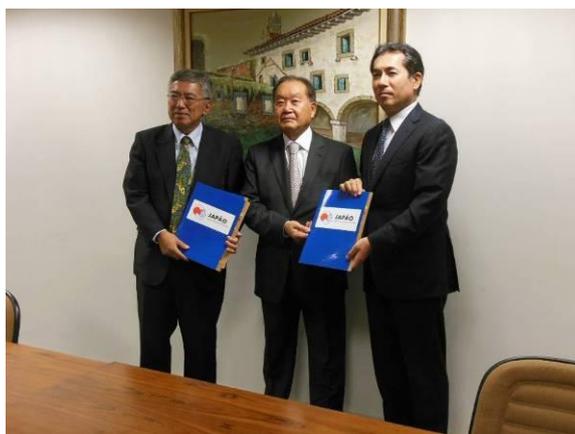
藤井晋介社長:「日本政府と我が社がサンタ・クルス病院を支援することができることに対し嬉しく思う。ルシアーノ・コウチーニョ国立社会経済開発銀行(BNDES)総裁からもサンタ・クルス病院への支援の話があった。サンタ・クルス病院はブラジル社会で素晴らしい活動をし、これから最先端の医療器材の整備によりさらに数多くの人々の治療を行えるようになる。サンタ・クルス病院のこれからの発展を願う。」と祝辞を述べました。

レナット・石川理事長:「私達は、日本政府及びブラジル三井物産の協力を敬意を表するとともに、喜びと感謝の気持ちでいっぱいである。サンタ・クルス病院はトップレベルの病院を目指している。現在進行中の『プロジェクト・イノヴァ10』は10年以内に病床数の増加及び医療機材の最新鋭化を目指している。そのため、他の医療機関及び大学と連携し情報交換を行っている。あらためて、この協力を頂いたことに日本政府と三井物産へ感謝の気持ちを表したい。」と謝辞を述べました。

2. 案件概要: サンタ・クルス日伯慈善協会・サンタ・クルス病院は1926年に設立され、現在はベッド数166、医療チームとして約2,000人の医師が登録されており、これらの医療チームは専門知識を有するハイレベルの有資格者であり、病院が提供するサービスに全幅の信頼が寄せられています。

サンタ・クルス病院の2013年の診察数は、105,838件であり、当該病院は年間約12,845件の手術を行っていますが、各種手術用機材の老朽化が進んでいたため困難な手術にも対応できる最新の手術機材の整備を要望していました。

3. 今回の協力は、ブラジル三井物産と協力し、手術台、電子外科用メス、気管支鏡、麻酔器及び手術ライトの整備に対し支援を行うもので、草の根・人間の安全保障無償資金協力として、232,316,09リアルを限度に資金を供与し、ブラジル三井物産から123,000リアルを供与することとしています。この医療機材の購入により、より高度な手術が可能になる他、待機患者の減少、地域社会への貢献等が期待されます。



(左から藤井晋介社長、レナット・石川理事長及び 福嶋総領事)

(お問合せ先) 在サンパウロ日本国総領事館経済班

(0xx11)3254-0100